

志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会

阿部幸一会長(79)

旧大井沢村(西川町大井沢)で医師として生涯をささげた志田周子(1910〜62年)の功績が改めて評価されている。その生涯の映画化を目指す「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」が2013年2月に設立され、撮影が昨年10月に始まった。志田の魅力や撮影への思いを、同会の阿部幸一会長(79)に聞いた。

【山中宏之】

——志田は西川町の人にとってどのような存在ですか。

宝ですね。西川町だけではなく、山形県の誇り。24歳の志田が医師として大井沢に戻るまで、村には一人も医師がいなかった。最初は若い女性医師ということで苦勞も多かったが、遅い時間でも、雪の降る中でも呼ばれば患者の元に必ず向かうことで、少しずつ住民の信頼を得ていきました。

医療見直す端緒に

しました。この映画には現代の地方に存在する「過疎化」や「無医村」という課題が描かれている。過疎地域で働いている医師への励みにもなると思います。これをきっかけに若い医師が無医村で働くようになればうれしいですね。映画制作には、全国の医師や歯科医師10万人以上で組織する

「全国保険医団体連合会」の協力を得ています。脚本は尾花沢市出身の脚本家、あべ美佳さんが担当しています。あべさんは甦らせる会を設立する前の検討会から参加しています。「ぜひ私に脚本を書かせてほしい」と熱意を持って訴えられました。私をはじめ、みんながその思いに意気込みをみても、この映画は成功すると確信しています。

——制作費に充てる募金は、全国の医師や歯科医師10万人以上で組織する「全国保険医団体連合会」の協力を得ています。脚本は尾花沢市出身の脚本家、あべ美佳さんが担当しています。あべさんは甦らせる会を設立する前の検討会から参加しています。「ぜひ私に脚本を書かせてほしい」と熱意を持って訴えられました。私をはじめ、みんながその思いに意気込みをみても、この映画は成功すると確信しています。

——実際に活動を進めていくうちに、住民の理解も少しずつ得られ、「協力します。少しでも使ってください」と寄付してくる人も出てきた。町民が積極的にエキストラに参加するなど熱を帯びてきている。成功には地元が燃えることが不可欠なのでいい傾向です。

宝ですね。西川町だけではなく、山形県の誇り。24歳の志田が医師として大井沢に戻るまで、村には一人も医師がいなかった。最初は若い女性医師ということで苦勞も多かったが、遅い時間でも、雪の降る中でも呼ばれば患者の元に必ず向かうことで、少しずつ住民の信頼を得ていきました。

——映画化を目指したきっかけは。

無医村の大井沢に戻り、医師として、女性として活躍した志田の存在を伝える必要があると感じました。

——「全国保険医団体連合会」の協力を得ています。脚本は尾花沢市出身の脚本家、あべ美佳さんが担当しています。あべさんは甦らせる会を設立する前の検討会から参加しています。「ぜひ私に脚本を書かせてほしい」と熱意を持って訴えられました。私をはじめ、みんながその思いに意気込みをみても、この映画は成功すると確信しています。

——実際に活動を進めていくうちに、住民の理解も少しずつ得られ、「協力します。少しでも使ってください」と寄付してくる人も出てきた。町民が積極的にエキストラに参加するなど熱を帯びてきている。成功には地元が燃えることが不可欠なのでいい傾向です。

——実際に活動を進めていくうちに、住民の理解も少しずつ得られ、「協力します。少しでも使ってください」と寄付してくる人も出てきた。町民が積極的にエキストラに参加するなど熱を帯びてきている。成功には地元が燃えることが不可欠なのでいい傾向です。

——実際に活動を進めていくうちに、住民の理解も少しずつ得られ、「協力します。少しでも使ってください」と寄付してくる人も出てきた。町民が積極的にエキストラに参加するなど熱を帯びてきている。成功には地元が燃えることが不可欠なのでいい傾向です。



あべ・こういち 1935年、旧西山村(現西川町)生まれ。西川町立東部中卒業後、小売店経営などを経て、同町間沢に料亭「玉貴」を創業。現在も社長を務める。月山朝日観光協会会長などにも就いている。

——映画は、志田役を女優の平山あやさん、父で大井沢村長だった荘次郎役を俳優の榎木孝明さんが演じ、今秋公開予定。

この人に聞く